

本校は、木山町、津森村、福田村の中学校組合立木山中学校を前身として、昭和26年、初代校長 木村義泰先生が赴任されてから66年目にあたる、伝統ある学校です。

校区は、熊本市の東部に位置し、県道熊本・高森線が町の中心部を通り、また、町の北側には第二空港線が東西に走り、人や物流の大きな流れを支えています。阿蘇くまもと空港周辺には、テクノポリスセンターや東海大学宇宙情報センターがあり、最先端の情報工学拠点があるとともに、益城台地には農業用ハウスが広がり、スイカ、メロン、サツマイモ、タバコ等が栽培され、町の代表的な農産物を生産しています。また、役場、文化会館、総合体育館、町民グラウンド、陸上競技場、交流情報センター等の公共施設も校区内に多数あり、長く益城町の経済の中心地としての役割を担ってきました。

さて、平成28年4月の熊本地震で益城町では、尊い命、建物を失い、そして心にも大きな傷を残しました。木山中学校も、渡り廊下の崩壊や体育館への被害等、大きな被害を受けました。家での生活も、学校での生活も、当たり前のことが当たり前でなくなり、当たり前を大切にしなければならぬと体で実感しました。

しかし、木山中学校の生徒は、自分が被害にあいながらも、避難所等でのボランティア活動に励み、益城町の皆様の心を元気づけてくれました。また、全国から励ましの言葉や支援物資をいただき、感謝で一杯の気持ちにもなりました。

このように平成28年度は、日本全国の皆様から励まされ、生徒は震災からの復興を一步も二歩も踏み出してくれました。

現在では、普通教室や特別教室、体育館、運動場も使用できるようになり、普段の教育活動は不自由なく行うことができるようになりました。復興支援では、本年度も、日本全国の皆様より、多くの励ましの言葉が届いているとともに、復興支援の行事が計画されており、本当に感謝で一杯の気持ちです。

木山中学校では、「三綱領」の「親和協同」「自主創造」「努力実践」を基本目標とし、学校教育目標「自立心を持ち、仲間と協同し、夢に向かって努力する生徒の育成」の具現化を図り、徳・知・体のバランスの取れた生徒の育成を目指しています。

そして今年は「復興元年」として、「益城町の復興は木山中学校から・・・若いパワーを生かして、「夢」をもって挑戦し続けよう！」を合言葉に、地域の皆様、保護者の皆様と共に「夢を語り、夢を育てる学校づくり」へ邁進していきたいと思えます。

益城町立木山中学校

校長 河瀬清彦